

ウォーキング雑感(その3)



(一社)日本機械土工協会
常務理事 保坂 益男

秋の甲州街道

たまたま甲州街道を歩いたとき、誰かに頼まれて書いたものがありました。内容を読んで若干手を加えたものを掲載したいと思います。

コスモスの咲き乱れる旧甲州街道を歩きました。

5年ほど前、すでに旧甲州街道は高尾まで歩いておりましたが、その後何となくウォーキングから遠ざかっておりました。この度は久々の秋の5連休とあって、何がなんでも歩こうと決めました。

今回は東京から下諏訪を目指したので、歩くほど東京が遠くなり何故か寂しい思いをしたので、今回は甲州街道の終点である下諏訪から歩くことにしました。

5連休なので最低でも4日間は歩きたいとの思いで荷物をまとめ、仕事が終わるとすぐに職場を飛び出し「あずさ31号」で移動、夜10時前に下諏訪の諏訪大社下社秋宮近くにあるホテルへ宿泊し、明日に備えます。

翌朝6時45分にホテルを出発し諏訪大社下社秋宮を参拝、すぐ近くにある旧中山道と旧甲州街道合流の地点(石碑あり)を確認し、東京方面へ向かって歩きだしました。

東海道や中山道は、新道と旧道、江戸時代からの道路の3種に分かれている場合が多いが、甲州街道の平地は現在歩いた限りでは国道20号線(東京～塩尻)として整備された新道と、現在県道となった旧道に分かれているようです。

江戸時代の道路を拡張して旧道が整備

されたのだと思うので、もちろん歩くのは新道にまわりつくように残っている旧道を優先すると決めています。

狭いが旧道は新道とちがってほとんど車は通らず、集落の庭に植えられている花々を眺めながら、柔らかな曲線の多い道をスピードに乗って歩くと、時間の経つのを忘れることができます。ただ気になるのは東海道や中山道もそうでしたが、集落に入ってもあまり人影を見ないことです。特に昔私たちが育った頃と違い子供が外で遊んでいる姿をみることはほとんどありませんでした。

新道は自動車道路として整備されており、人間の歩く領域はほとんどが排水溝のふたの上であり、落語に江戸時代は土農工商が道を歩き、落語家はドブを這って歩いたとの笑い話がありますが、現在国道を歩くときには、それを地でいっている時代となりました。

しかし、初秋の甲州路は市街地をはずれると畑地や田んぼが多くコスモスが咲き乱れており、すばらしい風景が展開。カーブする坂道の縁石の車道側の、わずかに積もった土砂のうえに、ど根性コスモスが一列に並んでけなげに花をつけている姿は可憐であります。それにくらべ切り通しの石垣の下を歩くと、干からびたミミズが多く目にとまります。二宮翁の著書に、地面の温度が上昇すると我慢が足りないミミズは地表に出てきてかえって命を落とすと、ガマンの大切さを教えているそうですが、石垣の水抜きの中か歩道にわずかに積もった土やゴミのなかで育ったミミズのなかで、ガマンの足り

ないミミズが地表に出た結果だと思うと、なんだか身につまされ可哀想な気がします。

長野県茅野市の金沢地区は下諏訪から20km位歩いたところであり、国道金沢交差点から1～2分横道へ入ったところに金沢温泉「金鶏の湯」がありました。

これ幸いと初日の歩き収めとし入浴。ここの湯は関東平野の温泉と同じような黄土色の肌がヌルヌルするアルカリ性の成分で、疲れた身体には最高の贈り物となりました。

二日目は富士見峠を歩いて山梨県の韮崎を目指します。歩道には、イガつきの栗やくるみが落ちています。見上げると山栗や野生のくるみの枝が歩道まで伸びており、なかには山芋のツルにできる丸い豆状の子芋も混じっています。

富士見峠の頂上は、峠の茶屋の代わりに現在はコンビニが営業しており、店内で水分補給をしながら小休止。

普段は車で走っているので道路の傾斜に気を留めることはないのですが、歩くと峠道の登りは大変キツイ。反対に下りは身体が軽くなった感じで軽快に進むことができます。

現代の「道の駅」は、車で移動する人びとの利便性のために作られており、甲州街道でも江戸から43番目の宿場町である蔦木宿を過ぎたところに道の駅・信州蔦木宿があります。この道の駅は温泉まであり大変きれいな建物が何棟か並んでいます。食事のできる建物に入り、もうすぐ甲州山梨に入るので、信州信濃の最後の昼食は迷わず「そば」を注文しました。

午後は県境を経て甲州山梨県へ。国道20号線を北杜市まで歩き、韮崎まで歩き通して宿泊するつもりで、韮崎市内の宿泊施設へ予約の電話を入れるがまるでだめ。大きなイベントがあり、韮崎もその先の甲府市も宿泊は予約で全部ふさがっているとのこと。

東海道も中山道も当日の午後に宿泊のための旅館、ホテルを探したが泊まれない事は一度もなかったので、甲州街道も大丈夫だろうと思ったのがいけません。両街道の主な都市の宿泊施設の数と甲州街道の宿泊施設の数は随分と差があり、宿泊施設の数が限られておりどこへ電話をしても無理だという返事。

大きな決断を迫られる事になりました。スマホで現在地を調べると北杜市白州町鳥原地区で、すぐ近くに「県営白州団地入口」のバス亭がありました。迷わずバスで韮崎駅へ移動し、帰宅する事にしました。バスへ乗車すると車内に張紙があり、敬老の日の企画として連休の期間中に60才以上で、バス利用した人は全線100円ということで、60才以上であるとの証明をしてほしいとのこと。

降りるときに「証明が必要ですか」と訪ねたが運転手はこちらの顔を見て「いません」との返事。100円はうれしいがウオーキングの格好をしていても、70才台では間違っても60才以下に見られることはないなど、ちょっと寂しい気もした。おまけに後に判ったことだがこのバスにスマホを忘れて、せっかくそれまで小まめに撮った写真が使えなくなってしまったのです。

帰宅して翌朝は近所を流れている瀬戸川（静岡県藤枝市・旧東海道藤枝宿）の堤防を1時間歩く。山間地の甲州街道との温度差が大きいのか、甲州街道では見ることはなかったが赤い彼岸花が堤防いっぱい咲き誇っていました。甲州の武田信玄は藤枝市からさほど遠くない菊川の牧ノ原大地に一時期支城をもっていました。当時から日本の動脈であり平地の多い東海道筋に領地をつなげることが信玄の夢の一つであったかも知れないと思いを馳せました。（つづく）

